

基礎パッキン

基礎パッキンとは、コンクリート基礎と土台との間に挟む部材です。
基礎パッキンを取りつけることによって、従来の床下換気口より1.5～2倍換気量が増えます。
また、湿気が土台に上がることを防ぐので、シロアリ被害も未然に防ぐ効果もあります。

柱

柱には、JASマークがついている木材を使用しています。

JASとは「日本農林規格」のことです。

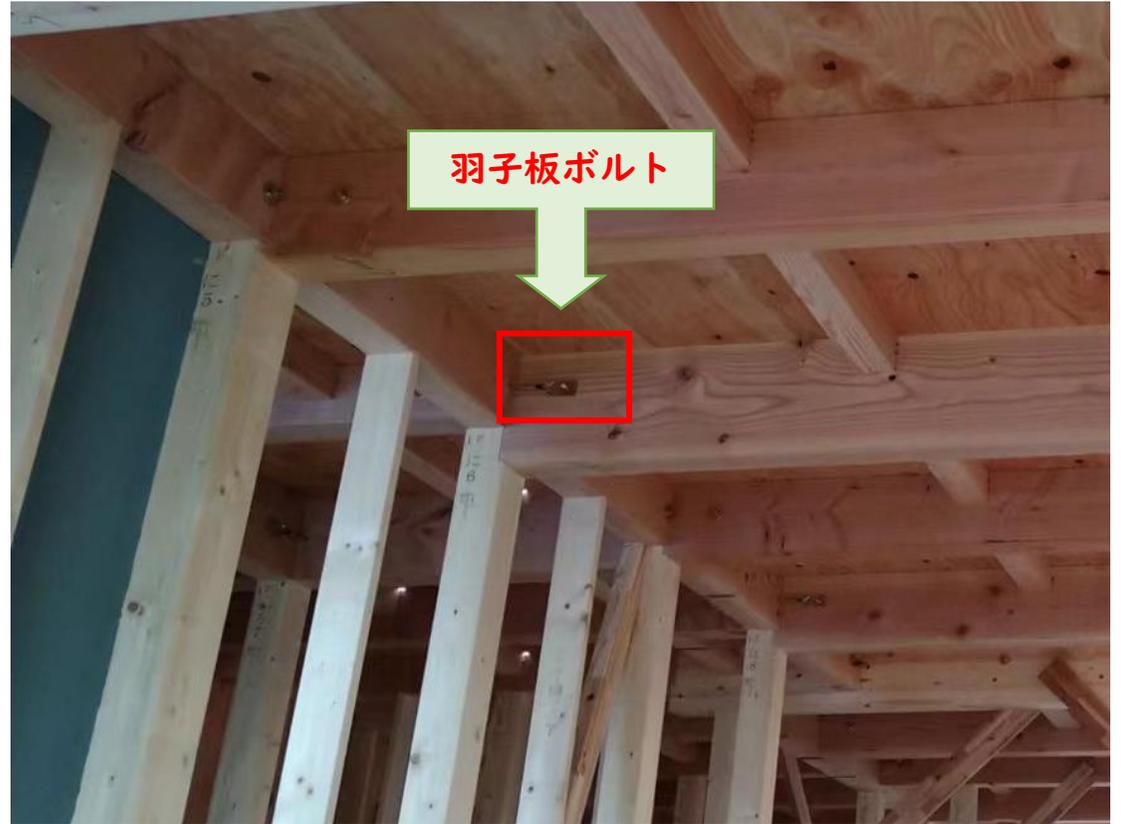
強度や含水率が検査によって基準に満たされ、品質が保証された木材のみ使用しているの
で、強度の面で安心です。



JASマーク

ボルトの施工

「羽子板ボルト」とは、柱と桁、梁と桁のように直角に交わる部材を強力に緊結させるための金具のことです。棒状の部分は、柱などを貫いて留められることから、非常に緊結力が高く、強固に緊結しておくことで、地震や台風の際に木造軸組工法の建物で梁が外れたりしても、脱落してしまうのを防ぐことができます。

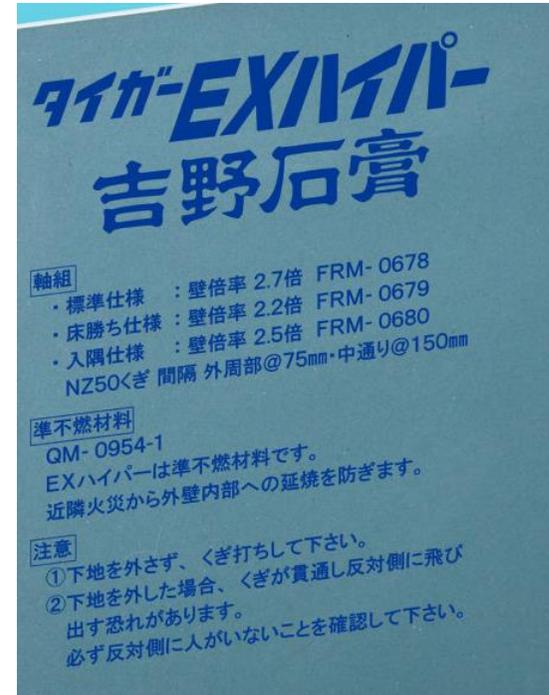


筋交い

筋交いとは、建物の耐久性を高める斜め方向の部材です。木造住宅などの耐久性は基本的に「耐久壁」か「筋交い」の一方か両方によります。筋交いを正しく、バランスよく入れることによって、耐久性の強い建物に仕上がります。



耐久壁



耐久壁

一部には、石こう系の耐久壁を使用しています。耐震性に優れ（壁倍率2.7倍）、耐火性能にも優れ、結露の発生を抑制、断熱性能も兼ね備えています。また、筋交いと併用することでより耐震性を高めます。

筋交いと耐久壁
併用





火打ち梁施工

「火打ち梁」とは、木造の小屋組みで、地震や台風時に発生する水平力による変形を防止するために設ける斜材です。火打ちは、自然災害の多い日本の木造住宅にはなくてはならないものです。

「火打ち」は床面の水平方向の変位を拘束する部材であるのに対し、「筋交い」は架構（柱と梁で組んだ構造）の水平方向の変位を拘束する部材です。「火打ち」「筋交い」の両方を取り入れることで、より耐震性の高い住宅となります。

棟上げ完了

木造住宅の建築工事では、最後に屋根の上部に木材を架け、柱・梁・屋根といった家の骨組みになる部分の工程が完了します。この最後に組む木材が「棟木」と呼ばれているため、骨組みを最後まで作りあげることを「棟上げ（おねあげ）」と呼びます。

